報道関係各位

令和8年5月1日

北本市役所　市長公室
シティプロモーション・広報担当
秋葉　048-594-5505
koho@city.kitamoto.lg.jp

自治体広報の甲子園 全国広報コンクール 2部門【広報紙・広報企画】入選

広報紙 市部 入選

広報きたもと
令和7年10月号

広報企画 入選

マンガが創るまちのミライ　北本市公共施設マネジメント広報企画の軌跡

受賞の概要

全国広報コンクールは、地方自治体の広報活動の向上に寄与することを目的に、各種広報作品についてコンクールを行い、優秀団体を表彰するものです。日本広報協会の主催により、1964(昭和39)年から実施しています。

このコンクールは、都道府県別に**「広報紙」「写真（一枚・組み）」「映像」「ウェブサイト」「広報企画」**の部門の代表作品を決定し、全国で競います。いわば自治体広報紙の甲子園のようなものです。

北本市は、令和8年埼玉県広報コンクールにて、「広報紙」「一枚写真」「組み写真」の3部門で一席(1位)となりました。

この3部門の作品に加えて、広報企画作品が埼玉県代表作品として全国審査へ進んだところ、令和8年全国広報コンクール「広報紙市部」「広報企画」で入選を果たしました。

●広報紙　市部　入選
「広報きたもと令和7年10月号」
入選作品…各都道府県審査を潜り抜けた63点のうち、15点が選出

●広報企画　入選
「マンガが創るまちのミライ　北本市公共施設マネジメント広報企画の軌跡」
入選作品…全国の市町村から応募のあった61点のうち、9点が選出

作品概要および審査員講評

広報きたもと令和7年10月号
（審査対象：63点　入選：15点】

北本市には、長年にわたって里山の保全に取り組む市民グループが複数あり、中には30年以上活動を続ける団体もあります。そのモチベーションはどこにあるのか話を聞いて回ったところ、「自然保護」「環境問題」といった社会的使命以上に、**「子どもたちを雑木林で遊ばせたい」「仲間たちと自分たちで作った米や野良飯を楽しみたい」といった、暮らしに基づいた魅力を里山に感じて活動している**ことがわかりました。

さらに、仲間たちで採れた食材を持ち寄り、屋敷林を活用して生活用具を作るなど、「里山的」な共同体や暮らしが「お金を介さない世界」につながるという声もあり、里山は皆さんにとって「人生の一部」であるということが伺えました。

従来の自治体広報で語られるような**「自然保護」ではなく、「里山的なライフスタイルの魅力」を当事者の「私にとって、雑木林はクッション」「大人の贅沢な遊び場」といったリアルな言葉で伝えることによって、環境意識が特別高くない層にも北本の里山の豊かさが伝わる**と考え、企画したものです。

■反響、その後

・各グループへの問合せや参加者の増加

・別々に活動していたグループにつながりが生まれ、「秋のおまつりめぐり」を合同開催。
さらに、特集のスピンオフ企画として、「農と雑木林」「里山とコミュニティ」といったテーマごとにお互いの活動や想いを語り合うトークイベント「さとやまトーク」を開催

・広報きたもと読者アンケートでも、里山保全に関わる人たちの記事掲載を要望する声も

審　査　員　講　評

特集は里山の保全・活用についてである。

大きな文字のアイキャッチや写真の配置に工夫がほどこされておりすばらしい。楽しく読むことができる。

地元の人が関心を持つというより、都会の人が帰りたくなるような企画になっている。

都市部に住む住民は、これほど豊かな里山が残っていたことに驚くだろう。

農家が支え、里山ライフを楽しむ様々な団体が活用して里山が保たれていることがよく伝わってくる。

作品概要および審査員講評

マンガが創るまちのミライ
北本市公共施設マネジメント広報企画の軌跡（審査対象：61点　入選：9点）

北本市は、市内公共施設の老朽化が進行し、維持費が増大となることを背景に、今後40年間で市内公共施設の延べ床面積を50%削減する「公共施設等総合管理計画」を平成28年に策定しました。

しかし、**計画策定当初の市民認知度はわずか15%。**将来公共施設を使うであろう若い世代の関心が低いことや、全体的な削減には賛成でも、実際に特定の施設を削減する段階で反対の声が生まれることなどを考慮し、**「若者」「現に施設を利用している人」をターゲットに、多くの市民の皆さんに読まれている「広報きたもと」に、公共施設マネジメントにかかるマンガを5年間にわたって定期的に掲載。**新聞にも複数回取り上げられ、市民の皆さんからも「わかりやすかった」「面白かった」との声が寄せられました。

親しみやすいキャラクターを用いたマンガは、広報紙に掲載するだけでなく、市民説明会等の資料にも活用し、関係市民の皆さんとの対話を重ね、公共施設の統廃合への不安が統合施設の新たな活用といった前向きな期待に変わっていきました。

さらに、公共施設マネジメントから、「人口減少」「消滅可能性都市」や、「総合振興計画」など、新たな行政課題や事業をテーマとしたマンガの掲載を続け、ワークショップへの参加につなげるなど、マンガを用いた広報の取組みは、現在も続いています。

審　査　員　講　評

公共施設マネジメント計画の市民の認知度が低いという課題に対して、職員作成のマンガを活用して、親しみやすく分かりやすく説明を行うという企画である。

難しいテーマの場合、特に若い世代に対して有効だ。広報紙を「お知らせ」する媒体にとどめず、「課題解決」のためのツールとして位置づけていることは画期的であり、興味深い重要な取り組みだ。

アンケートデータを読む際に表面的な解釈にとどめず、「自分ごと」として捉えた上での回答かについて深掘りすることで、何が真の課題なのかを明らかにしている。

市民との対話を重ねて合意形成（「総論賛成・各論反対」の壁を突破）した点が素晴らしい。これまでのシティプロモーションで培ってきた市民との信頼関係が功を奏したのではなかろうか。

全国広報コンクールでの北本市の受賞歴

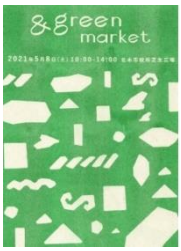
【広報紙】

・広報きたもと平成28年11月号
「財政状況伝えるマン」 **H29入選**

・広報きたもと令和4年9月号
「ここがわたしの居るところ」
R5内閣総理大臣賞（最高賞）

・広報きたもと令和5年10月号
「このまちに暮らす、わたしたち」 **R6入選**

・<u>広報きたもと令和7年10月号</u>
<u>「これが私の里山ライフ」 R8入選</u>



【広報企画】

・広報きたもと平成28年11月号
「財政状況伝えるマン」 **H29入選**
※広報紙部門とW入選

・「北本トマトカレー～創られたB級グルメが、自立し、市への愛着・誇りを育む～」 **R2入選**

・「＆green-3つの意欲を高める北本市シティプロモーション」 **R3入選**

・「北本市の暮らしの魅力が自動で拡散！『屋外の仮設マーケット』がシティプロモーションの鍵に！『マーケットの学校』と『＆green market』」 **R4内閣総理大臣賞（最高賞）**

・「まちへの参加を創る・発信する 北本団地商店街活性化プロジェクト」 **R5入選**

・<u>「マンガが創るまちのミライ　北本市公共施設マネジメント広報企画の軌跡」</u>
<u>R8入選</u>

担 当 者 コメント

「私にとって、雑木林はクッション」「お金を介さない世界が見たいんです」――里山の取材で、こんな言葉が聞けるとは！これまで自然保護の文脈で見聞きしていた北本の里山が、「ライフスタイル」を切り口にすることで、これだけ解像度高く、それぞれの人生に根差した言葉で語られることに感動。レイアウトや特集紙面の展開といったテクニカルな部分や整合性よりも、「まずはこの人たちが生の言葉で語る里山ライフ《ストーリー》」を届けたい！」その想いで、無我夢中で作り上げた紙面です。技術的に拙い部分も多く、文字数も非常に多いですが、実際に里山とともに生きて暮らす皆さんの物語は、読み始めたらきっと止まらなくなるはず。この結果を受けて、さらに多くの皆さんに、北本の里山ライフの魅力をお届けしたいです。

本企画は、今後40年間で公共施設の延床面積を50％削減するという公共施設マネジメント計画の「認知度15％」という課題に対し、職員が企画、作画した広報マンガを活用し挑んだ軌跡です。固いイメージの計画を親しみやすいストーリーにし、市民の「総論賛成・各論反対」の壁を突破。市全体計画から個別計画策定及び新施設の建設までの5年間を通したマンガ広報により、市民との対話を重ね、自分事化を図ってきました。
「え！部長がマンガ描くんですか！？」「マンガ見ましたよ！続きも気になります！」
そう言った声もお聞きするようになって本当に続けてよかったと感じています。
今後もチナツさんや元気くんをはじめとするキャラの活躍を期待していてください。